



子育てネット

子育てには、おしゃべりが一番

子どもが生まれた時、どんな子に育ってほしいか、あれこれ考えます。元気な子、明るい子、たくましい子、勉強のできる子、運動のできる子、やさしい子…などなど。中には、自分が得意だったことを得意にしてあげたい、または反対に、自分と同じ轍(てつ)は踏ませたくないと思ってしまうことも。仕事を得意にしてあげたいと考える方もいると思います。そして、職業について、「こんな仕事・あんな仕事に就かないかな」などと考えたりもします。今の時代やこれからの時代を考えて、親の思いは膨らんでいきます。いずれも、子どもの幸せを願うことです。

教育は国家百年の計ともいわれ、国も子どもの教育について考えています。現在の幼稚園教育要領は、これからは変化の大きい予測が困難な社会になると考え、変化にも対応し様々な人と協働できる人を育てたいと考えつくられています。そこには、「これからの社会がどんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい」という願いが込められています。

教育については様々なところで語られていますが、客観的な根拠をもつて話されることは多くありませんでした。一石を投じたのは、2015(平成27)年に出版された話題になった『学力』の経済学(中室牧子編著、デイスカヴァー・トゥエンティワン刊)です。その中では、人的資本への投資はとにかく子どもが小さいうちに

すべきであることが示されています。ただし、人的資本とは、人間がもつ知識や技能の総称ですから、しつけなどの人格形成や体力や健康なども含まれます。勉強だけのものではありません。むしろ勉強以外の能力はとても重要とされています。このことは、米国のペリー幼稚園プログラムで明らかにされています。このプログラムは、入園した子どもが追跡調査したもの



です。すると、6歳時点でのIQ、19歳時点での高校卒業率、27歳時点での持ち家率、40歳時点での所得が、いずれも入園した子の方が高かったこと、そして40歳時点での逮捕率が低かったことがわかりました。

幼児プログラムで何が変わったかという点、IQは8歳前後で差がなくなりましたが、忍耐力がある、社会性がある、意欲的である

るといった非認知能力(数値化できない個人の特性による能力)が改善していたということです。そして、これらは人から学び獲得するものであり、生涯にわたって影響を及ぼしていくのです。幼児期の教育は、重要である

ということが改めて伝わってきます。

子どもに寄り添う視点

幼児期の教育は重要なだけに、注意すべき点もあります。それは、子どもに寄り添うという視点です。子どもの思いや持ち味を考えずに押し付けていないか、型にはめようとしていないか、型にとです。愛情を注いでいるつもりが、子どもがこうしてほしいと求めているもの(抱きとめてほしいとか、話を聞いてほしいとか)と

ずれていないか、考え続ける必要があります。

子育てに悩みはつきものです。なかなか思った通りに育ってくれません。みんな悩みながら子育てしています。でも、子どもが楽しんでに駆け回ったり、何かに夢中になっていたり、笑顔でいたりしていれば、大丈夫です。それでも悩んだときのために自分なりの解決方法をもつことは必要です。有名な先生の本を読んだり講演を聞いたりすることも良いと思います。中でもすぐにできる方法は、同じ子育てをしている保護者や地域の少先輩の父さん母さん、幼児センターの先生や関係機関の方などと話をすることです。話をすることで、他の人はこんな風にして

いるんだとか、こんなことを考えてやっていると、子育てを振り返り学ぶことができます。その上で、私はこうしたいと決めていくことができます。おしゃべり(情報交換)が、一番の方法だと思えます。

3年連続理想のパパに選ばれたつるの剛士さんは「育児は育自」「教育は共育」と言っています。子どもについて語り合い、ともに成長する気持ちをもちながら、一緒にお子さんの成長を見守っていきましょ。

東川町幼児センター 園長

安達 啓一